

地域公共交通確保維持改善事業

平成27年度事業評価について

平成27年12月22日

湖西市企画部市民協働課

平成23年4月1日設置
フィーダー系統

平成24年6月21日NW計画策定
平成25年6月11日NW計画策定
平成26年6月30日NW計画策定
平成27年6月30日NW計画策定

湖西市地域公共交通会議

①協議会が目指す方向性(Plan)

1)取り組みの概要

- 平成23年に、地域公共交通確保維持調査事業を活用し、市民の移動実態などについて把握。
- 調査結果を踏まえ、「湖西市地域公共交通基本計画」を策定し、“誰もが移動しやすい湖西市”の実現に向けて取り組みを開始。

課題

地域公共交通空白地域の解消	地域公共交通による移動環境の整備	市民がバスを身近なものと感じられる働きかけ	限りある財源の中効率的な地域公共交通への取り組み
---------------	------------------	-----------------------	--------------------------

基本理念

誰もが移動しやすい湖西市

基本方針

- | | | | |
|--------------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|---------------------------|
| (ア) 現在、移動に困っている住民を主対象に、速やかにバス路線全体をゼロベースで構築 | (イ) 市民との積極的な情報共有による市民生活に身近な地域公共交通の実現 | (イ) 地域公共交通について地域とともに考え、取り組むような姿の実現 | (ウ) PDCAサイクルの実行による確実な進行管理 |
|--------------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|---------------------------|

数値目標①

誰もが乗れる地域公共交通の利用圏域

86% (H25)
⇒ 95% (H28)

数値目標②

バス利用者数

毎年度継続して前年度を上回る
(H22年度：165千人)

図 湖西市地域公共交通基本計画の概要

2)各基本方針の概要

(ア)バス路線全体をゼロベースで構築

- 誰もが利用でき、できるだけ乗り換えなく目的地に直行できるよう、地域公共交通体系を見直し

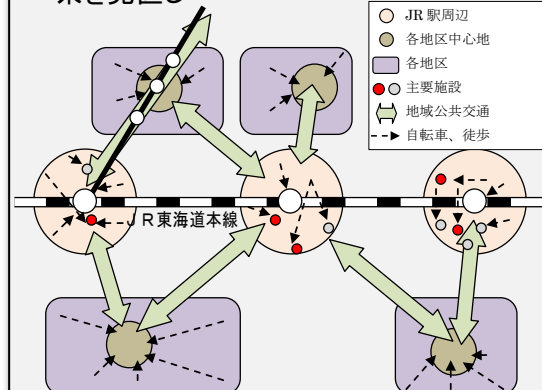


図 ネットワークの考え方(イメージ)

(イ)市民との積極的な情報共有 地域とともに考え取り組む姿の実現

- 情報提供、PR、モビリティ・マネジメントなど利用促進策の実施を計画

表 利用促進策(案)の一覧

施策の目的	具体的施策
情報提供	市内統一の路線図、時刻表の作成・配布
	地域公共交通専用ページの作成
	広報での紹介 意見交換会の定期開催
PR	イベント時のPR 各種会議での利用をPR
モビリティ・マネジメント	転入者MM 特定路線沿線MM
その他	運賃の工夫 免許自主返納に対する支援

(ウ)PDCAサイクルの実行による確実な進行管理

- 毎年実施する小さなPDCAとやや長期で実施する大きなPDCAによる進行管理

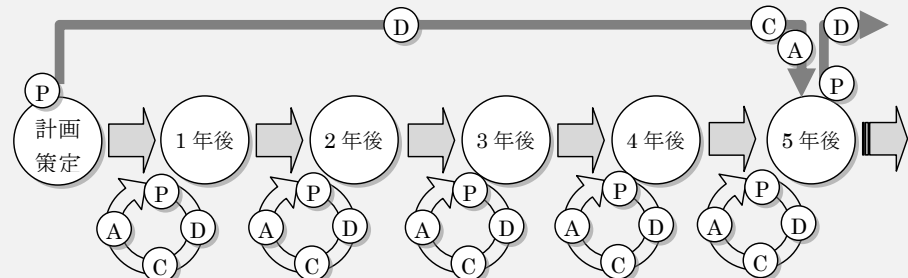


図 PDCAサイクルのイメージ

②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス(Do)

■鷺津地区内の循環運行と各地区から鷺津地区にアクセスする路線を分ける検討



図 再編後のコーちゃんバス



図 鷺津循環線

③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価(Check)

「湖西市バス運行評価改善報告書(平成27年12月)」より

ア)バス交通全般に対する評価

良い	改善が必要
<ul style="list-style-type: none"> ・3月までは利用者が増加しており評価できる。 ・8月の利用者は、夏休みこども割引による増加以上に年々増加していることから、通勤・通学以外の利用者が増加しており評価できる ・鷺津地区の路線を切り離し、速達性と定時性の向上を図ったことは評価できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、通院、買い物など通勤・通学以外の利用促進が必要 ・高齢者など主要な対象の利用者像を明確化し、効果的な周知方法を検討し実行することが必要。 ・どの路線のどの便も、車両の定員(約30人)と比較すると利用はまだ多くはない。 ・通学に対しては、通常授業に合わせたダイヤとなっている。それ以外の時間割や運動会に合わせた運行も検討するとよい。 ・バス路線沿線地域を活性化させるため、JR、JA、商工会、スーパー、観光事業者、市の施設管理者等と連携するとよい。

イ)利用促進に対する評価

良い	改善が必要
<ul style="list-style-type: none"> ・ポケット時刻表は、持ち運びができるサイズで好評。 ただし、今後は、定量的に把握できるようにするとよい ・加えて、路線ごとのコンパクトな時刻表作成を検討する必要があるとよい。 ・夏休みの小学生割引は、効果が出ており評価できます。 ・買い物ツアーの効果は定量的には計測できませんでしたが、参加者からはおおむね好評だったため、評価できる 今後は、他地域への展開など継続的な取り組みが望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全利用者を対象とする運賃割引を検討する必要がある。 ・乗り方教室は、幼稚園児だけでなく小学生にも対象を広げるとよい。 ・今後も継続的な利用促進ツアーを実施する必要がある。 また、実施したツアーの様子や利用者の声を広報こさい等で紹介するなど、施策のPRにも力を入れたほうがよい。

ウ)その他

良い	改善が必要
<p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・将来に向けて、ゾーンの再設定、均一運賃など最適な運賃体系を検討する必要がある。 ・土日祝日運行や地域のイベントでの利用を検討する必要がある。

④自己評価から得られた課題とその対応(Action)

1) 運行内容の改善

- 自主運行バス浜名線の運行内容の見直し
- 新居地域における循環路線の検討

2) 運賃の改善

- 自主運行バス浜名線の運賃制度変更
- わかりやすい運賃制度への改善

3) 利用促進策の改善

- バス利用体験会の定期的な開催
- 積極的な情報ツールの活用
- コーちゃんバス案内人の検討

4) その他の改善

- コーちゃんバスモニターの検討
- 利用促進案の提案

⑤アピールポイント(特に工夫した点)

■市民から提案を受けて、利用促進策を実施

- ・自治会の中で、バスの乗り方がわからない高齢者が多くいることに問題を感じていた市民が、自主的に利用促進策を企画・実施。
- ・岡崎地区からバスに乗り、鷺津地区のスーパーに行く買い物ツアーを行った。



図 買い物ツアーの状況

湖西市地域公共交通会議

平成23年4月1日設置

地域協働推進事業の目的

■コーちゃんバスの周知を図るとともに、バスへの愛着を醸成する。

- ・コーちゃんバスは、平成25年4月～運行。
- ・従前は、高齢者を対象とする無料の福祉バスを運行していたため、多くの市民は、バスを利用することに慣れていない。
- ・そこで、地域協働推進事業により、市民にコーちゃんバスを周知し、愛着を持ってもらうことを目的としている。

地域協働推進事業の概要

1. 地域協働推進事業計画の主な内容

- 湖西市全体を対象とする。
- 市民は、コーちゃんバスの詳しい運行内容まではあまり知らない。
- このため、地域協働推進事業を展開し、周知を行うとともに、地域公共交通の必要性や重要性への理解を得、愛着を持ってもらう必要がある。
- 主な施策 (予定)
 - ・バスマップ・時刻表、バス利用案内ガイドブックの作成
 - ・モビリティ・マネジメントの実施
 - ・バス車両のラッピング
 - ・周知ツール、グッズの制作
- 定量指標
 - ・年間利用者数 (H28年度：112,000人以上)
- 事業実施状況 (平成27年12月末現在)
 - ・モビリティ・マネジメント：実施中 (3月にフィードバック)
 - ・バス車両のラッピング (4台完了)
 - ・ガイドブックの作成：原案を作成。今後、地域の情報などを付加
- 協議会開催状況
 - ・平成27年6月15日 : 事業の概要報告
 - ・平成27年10月26日 : 事業の途中経過報告
 - ・平成27年12月22日 : 事業の途中経過報告。MMの結果報告
 - ・平成28年4月 (予定) : 事業の結果報告

○バスに1度乗っていただき利用方法やバスの良さを体験いただけるよう、各種施策を展開。

- ・買い物ツアー&モビリティマネジメント
- ・敬老週間高齢者割引、夏休み小学生特別割引

○バスに愛着を持っていただけるよう、施策実施

- ・車両ラッピング
- ・シールの作成

○その他、各種施策を実施

- ・周知ツールの作成：バスマップ・時刻表の制作
- ・周知：バスの日イベントでのチラシ配布



車両のラッピング



買い物・食事ツアー



コーちゃんバスシール(案)



バスの日のチラシ配り

協働推進事業に対する評価

◎協働推進事業など、今年度の利用促進策は、下記の点で評価できる。

- ・乗り方教室の実施など、住民に直接情報発信する取り組みを開始した。
- ・老人クラブや自治会が主体的になって乗車体験会を開催した。
- ・夏休み小学生割引、敬老週間高齢者割引など、前年度よりも利用者が増加しており、取り組みの効果が出ている。

◎他方、下記の点は改善が必要。

- ・路線の中には、利用が伸びないものもある。地域と協議のうえ、どのような形態が適切かを把握すべき。(本年度内に地域ヒアリング実施予定)
- ・乗り方がわからず利用できない市民や、利用に年齢制限があるという誤解を持つ市民も存在する。乗車体験など周知をさらに活発に実施すべき。
- ・平日昼間の運行では、利用できない市民も存在する。土日祝日運行の検討も行うべき。
- ・本年度の路線再編により乗り継ぎが発生する利用者が存在するため、案内人を配置するなどわかりやすい周知を検討する必要がある。

◎コーちゃんバスの利用は前年よりも160人増加(H26年10月～H27年9月)したが、目標値を達成できなかった。

今後は、浜名線も含めた取り組み、更なる利用促進が必要。

生活交通ネットワーク計画への影響

◎乗車体験会を老人クラブや自治会主体に実施することができた。

この取り組みを定期化するとともに、実施地域を広げることで乗り方の周知がこれまで以上に可能となると考えられる。

◎乗車体験会参加者の意見を、参加者に負担なく把握する手法を定型化する必要がある。

また、ここで出た意見を路線の改善につなげられるよう、意見把握方法や毎年の評価改善委員会での取扱い方について仕組みづくりを行う必要がある。

アピールポイント(特に工夫した点)

◎市民から提案を受けて、利用促進策を実施

◎昨年度のマップづくりのノウハウを基に、新たなバスマップ・時刻表はポケット時刻表型とし、昨年度の課題箇所を改善



次年度以降の計画への反映等

◎乗車体験会の定期開催と実施地域の拡大。

◎本年度作成予定のグッズ(コーちゃんシール)などを配布し、子どもなどにも訴求する。